

これとあはれとさもつたれとてこそ叶ふれども
唯二師のおもひきこみてかくたえ

冥途は君を待たんとすも愛もつたおかけに
多十番おん前の二十三歳は近衛殿の内宮川
主膳娘ありみめうちうまれ尚更え入まきり
悲めくもう初にして毎日法華経を誦しこの種は
いよくえきとされをや前部の種も妙法蓮花のこゝろ
とより利

妙も水花の蓮の花のえんむれ初より
これぞ前部のまとの葉にや前部を落しける

第十一番目に當り姫君の御前におり玉うり
とおもふ御前より今年十五歳いまだめくる花
のことくだくあまの奥羽あ國の美人あり
秀次公をきりに御前より七月けりあゝ
登るれはあゝの旅の法くれそまゝ
いまさるうちに此よりおこりて故人を
まゝうまひをせうりてやうえとまゝ
きそやまをむいとも原にゆきあかり
をかり新きれ淀屋の取成しに大岡もも
思召しきハ命を助めんこの六鐘倉にきり
尼に